

# 飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

## 第 393 回 日本の領域は、かなり大きい！

2010.11.28

最近物騒な話題が多い。

尖閣列島の問題、ロシア首相の北方領土訪問、ついこの間の北朝鮮の突然の実弾砲撃等。

実はこれらに共通する命題が根底があることに、日本人はあまりにも「お気楽」だと思う。

それは国家、つまり国の領域の問題であろう。

個々の問題、事件の正否を論ずる前に、国の領域とは何だろうと言う、

基本的事項を理解する必要があると思っている。今回は、そんなことを調べてみた。

**領域**とは、狭義には、国家の主権(統治権)が及ぶ空間的領域のことを指し、領土、その周りの水域、つまり領水、海の場合は領海及びそれらの上空(領空(りょうくう))から構成される。

現在のところ世界の海は国際法上大きく4つ(領海、接続海域、排他的経済水域、公海)に分けられている。

**領海**とは、領海の基線からその外側 **12 海里**(約 22km)以内の海域。沿岸国の主権がおよぶ海域であり、外国船舶がその海域を航行するためにはその沿岸国が定める無害通航に関する法令の遵守が必要となる区域。

**接続海域**は、領海の基線からその外側 **24 海里**(約 44km)以内の海域(領海域の外側の 12 海里部分)。沿岸国が、領土・領海の通関上、財政上、出入国管理上(密輸入や密入国)、衛生上(伝染病等)の法令違反の防止及び違反処罰のために必要な規制をすることが認められた水域です。

更に、**排他的経済水域**(EEZ=Exclusive Economic Zone)。領海の基線からその外側 **200 海里**(370km)以内の海域(領海を除く)。沿岸国に経済的な管轄権が与えられているが、他国の航海に際しては自由通航となっている海域。

そして 4 つ目が**公海**。特定の国家の主権に属さず各国が自由に自国の旗を掲げて航行できる海域。これは国の領域ではない。

詳細は、海上保安庁 [Japan Coast Guard](#) をご覧になること、お勧めする。

日本は海洋国家である。

周囲を海に囲まれているゆえ、実はこの領海が他国に比べ驚くほど大きいのに気が付く。

領海と排他的経済水域を合わせると約 447 万 km<sup>2</sup>、

米国、オーストラリア、インドネシア、ニュージーランド、カナダについて**世界第 6 位**だ。

ロシアは実態に修正すると日本の次、第 7 位となるようだ(旧ソ連とは別)。

結局、日本の国としての領域は、国土(陸地)は約 38 万 km<sup>2</sup> で世界第 61 位だが、

領海と排他的経済水域、それに領土を合わせれば**世界第 9 位**となり、

日本は決して小さな国ではないことが分かる。

特に、日本の海域は、ロシアより大きく、中国の 4 倍、5 倍もある事実、驚愕すると同時に、武力を駆使してでも自国の領有権を主張し、海域の拡大を認めさせようとしている。

中国、ロシアに限らず、韓国、北朝鮮をはじめ周辺アジア各国は、

エネルギーや食料資源を確保し、軍事的優位性を図るため、同様の行動をとるのは当然である。

今回の物騒な事件の根底に、この領域、特に海域の問題が根強く横たわっている。

国家、ガバナンスについて信じられないほど「ノー天気」な日本人、無策な政治をみて、

むしろ、世界各国が戸惑っているように見えて、仕方がない。

1 日ごとに日本の領域は狭まっている事実、

50 年後、100 年後の日本は、本当に小さな国になってしまう...その時はもちろん私はいないが、孫や曾孫は、その狭い日本に、確実に生きている。